

## 2022年度（第44年度）事業計画

自 2022.4.1～至 2023.3.31

本年度は、新型コロナウイルス感染症が収束に向かう一方で、それが増幅した社会・経済上の変化、すなわち格差・断絶やメタバースの拡大などが、一段と進むことが予想される。2月に起きたロシアのウクライナ侵攻の帰結も現時点では見えない。このように激変する不確実な環境のなかでは、目先の状況への対応においても、また新しい探索や挑戦においても、基本に立ち返って経営の羅針盤を再確認することが特に大切である。そうした会員各位の経営に資するために、本年度も引き続き「文化と創業」という全体テーマのもとで、ともに学び実践する場をより積極的に設けていく。

部会では、移動や集会の自由が回復するに連れて、リアルでの活動を増やしていくことができると期待している。一方で、単に元に戻すばかりではなく、この2年半で発展したリモートの技術やノウハウを活かしながら、会員の利便性や運営の一層の効率化を高めるためのDXを推進していきたい。

委員会では、1年目で定まった方向性に沿って活動し、手応えのある研究成果として、参加者一人ひとりがそれぞれに何らかの糧を得られることを願っている。それらを提言など形あるものに結晶させるかどうかについても、各委員長と協議していく。

以下は、各部会・委員会他の活動方針である。

## 〈 部 会 〉

### 1. 総務部会

本部会は、担当する会務・財務・広報および事務局運営等について、適切な管理に努めるとともに、本会の円滑なる運営と組織の活性化、および会員相互の交流と資質の向上に向け、取り組みを進める。

本年度は、コロナ禍の先行き不透明な情勢のなか、WITH コロナ・POST コロナ時代においても、本会目的を達成する活動を維持・発展させるため、事業の一層の効率化、事務局運営のさらなる業務効率化をめざし、持続可能な財政構造を追求していく。

また、引き続き Web 出欠管理システムの運用強化に取り組み、本会ホームページ会員専用ページの利用率向上に繋げるべく、Web を活用したスピード感ある情報発信や利便性向上に努める。

### 2. 例会部会

本部会は、会員が定期的に一堂に会し、気付きや学びを得ることができる定例例会の企画・運営を行う。

本年度も、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に講じた上で、講師の招聘による講演会形式で例会を実施する。会員のニーズを踏まえ、企業経営者はもちろん、文化・学術など様々な分野の講師を招き、幅広いテーマで例会を開催する。加えて、部会・委員会の活動の場のひとつとして、各部会・委員会との「共催例会」にも積極的に取り組むこととする。

また、会食での食品ロス削減に向け、会員には引き続き回答期限の遵守の呼びかけなどの対策を行う。

### 3. 交流部会

本部会は、日帰りの視察を中心とした企業ビジットの開催等、会員相互の交流と理解、会員自身の“気付き”の場となるよう趣向を凝らした事業を企画する。

また、昨年度に引き続き、委員会の活動とも連携しながら、近隣の経済同友会との交流や懇談を企画・実行したい。

併せて、海外視察団（代表幹事ミッション）の派遣も企画したい。

このほか、全国経済同友会セミナーや西日本経済同友会会員合同懇談会にも積極的に参加し、他同友会の会員との懇親・交流も深めることとしたい。

#### 4. 北部部会

本部会では、昨年度に続き「関係人口」をテーマとして、京都府北部地域（亀岡市以北の地域）の活性化に向け、さらに議論を深めるとともに、解決の糸口を見出していく。

新型コロナウイルス感染症の影響により、観光産業等が大きな影響を受けている一方で、テレワークの普及などの社会変化により、副業やワーケーションといった働き方を活用した、関係人口の増加を図るチャンスがあると捉えている。

昨年度の活動を通じて、北部地域の経済の牽引役として重要な役割を担う、若手経営者が存在することを知るとともに、関係人口となりうる北部にゆかりのある人や北部に関心をもつ人に、北部の魅力のアピールできていないことが見えてきた。

本年度も、北部の現状や課題等をより一層明らかにし、我々自身が北部地域についてより知識や理解を深めるとともに、経済人の人的交流も図られるよう、行動に移していく。

また、北部企業の会員増強等に繋がる事業についても、引き続き取り組んでいく。

#### 5. 青年政策研究部会

本部会は、本年度のテーマを「好奇心を鍛える」とする。

知らないことやわからないことに対して、その理由や意味を知りたいと考えるのは、我々ヒトの根源的欲求である。我々は1年間の活動を通して、未知のことや珍しいことに対して主体的に情報感度を高めて興味を抱き、「もっと知りたい」「もっと見てみたい」といった感情をオーバーフローさせていくことをめざす。そしてその好奇心が原動力となり、冒険心を燃え上がらせることで新しいイノベーションが促進され、自分自身の器や人間力が向上し、新たな縁が生まれ、結果良き経営者へ成長できると考える。

以上のことから、本年度は興味関心の対象を広げ探求できるよう好奇心を鍛えていく。

また、本年度は青年政策研究部会の30周年（ジュニア・グループ発足から60周年）の節目を迎えるにあたり、記念式典を実施する。多くのOB・OGや会員の方々にとって実りのある企画となるべく、準備を進めていく予定である。

#### 6. 支店長部会

本部会は、京都支店長や京都支社長等で構成され、「外から見た京都」という視点を本会活動に活かすため設置されている。設置後7年を経て、地元企業との交流に努め、一定の評価も得て、京都文化を学び、活動も定着しつつある。

本年度も、京都や地元企業への理解を一層深めるために、京都企業の視察、会員による講演、部会員らによるパネルディスカッションなどを積極的に企画・実施する。

また、多様なテーマを研究する各委員会と連携し、部会員の本会活動への積極的な参加に繋げたい。

## 〈委員会〉

### I. 特別委員会

#### 1. 文化庁との共創特別委員会

本委員会は、これまでの研究を踏まえ、文化と我々日本人がどのようにともに歩むべきか、そして京都にいる我々は、今、何を成すべきなのかを考えていく。

本年度は昨年度に共有した認識を基とし、文化の担い手となって活動される方々や団体、文化庁などの行政と協力し、より有機的・総合的に活かしていくためにはどうあるべきなのか、それぞれが力を出すことでどのような発信ができるのか検討していく。

また、「共創」についても具体的な内容と適切な方法を検討する必要がある。現段階での一案としては、「人を創ること」を念頭に置いた高等教育などの場における文化教育や事業の在り方が挙げられる。また、京都経済同友会ならではの歴史と実践を活用し、文化庁職員がこれらの取り組みに対してより深く理解できる場の提供についても議論を深め、今後の具体的な提言に向けて活動を重ねていきたい。

### II. 研究委員会

#### 1. 文化と経営研究委員会

文化は、芸術、歴史、伝統などをイメージする場合も多いが、アニメなどの若者文化、また企業文化、異文化など、様々な使い方や定義がある。本委員会では、文化を、特定の領域に限定せず、「およそ人間と人間の生活に関わるすべてのこと」と広く捉え、様々な角度からアプローチする。

本年度も、多面的視点から文化と経営をテーマに研究し、日本や京都の文化を見つめ直すとともに、経営者として、「文化にどのように向き合うか」「文化から新たな価値や産業をどのように創造するか」について考え、談論風発な議論を展開する。

#### 2. スタートアップ・エコシステム研究委員会

本委員会では、昨年度、起業家および起業家を支援している方との対話を行い、「京都の魅力、京都らしさ」や「京都のもつ課題」等について問題意識の共有を行った。本年度も引き続き「対話と連携」をキーワードに、昨年度に理解したスタートアップを取り巻く環境を踏まえ、「社会全体でスタートアップを応援する仕組み」について考えていく。

本年度4月には、IPOを軸にした想いや苦勞、将来起業をめざす学生の支援等について経営者との対話を行うことを予定している。また、(一社)関西経済同友会をはじめ近隣他府県の経済同友会との対話をすすめ、関西でのスタートアップ支援の連携の余地を探る。さらに、シリコンバレーを

はじめとする海外の先進的事例と現状の京都との違いを学ぶ。これらの「対話と連携」を通じて得た問題意識を本会会員が共有し、「京都を起業家やスタートアップに関わる人々が集まる地域にしていくには何が必要なのか」、そして「京都にスタートアップを応援するエコシステムを構築するためには何が必要なのか」について議論を深めていく。

### 3. 教育についての研究委員会

本委員会では、広く人材を輩出するにあたって、チャレンジする勇気の低下やエネルギーの枯渇、人材育成における自ら学んでいく風土づくり等を課題と捉え、その解を過去の事例、海外の事例など広範に求めていこうとしている。昨年度に続き、経済・社会価値の拡大・発展に結びつけるための、エコシステムや教育の在り方について考えるべく、「育てる」ではなく「育つ」という観点で、学校教育および生涯学習についての研究を深める。具体的には、大学前後の教育を研究対象とし、初等教育や中高生など大学進学前の学校教育の在り方や、大学卒業後の社内教育や社会人教育など、様々な事例を学びつつ、新しい価値の創造に向けて活動を進めていく。

併せて、次世代育成に関連するグローバル人材開発センターや京都教育懇話会等の諸団体との連携や京都学生祭典も引き続き担当する。

#### 〈 準会員組織 〉

##### 企業幹部研究会

本研究会は、時宜にかなったテーマを取り上げ、メンバーの自主運営により、充実した活動を展開したいと考えている。

具体的には、本会の役員等を講師に招いての講演例会、メンバー自身による研究発表、企業視察、宿泊体制で臨む合宿例会等、多彩な研究活動を展開する予定である。

また、各活動への積極参加を求めるとともに、準会員の特性を十分に活かすべく、本会主催の諸事業にも積極的に参加していく方針である。

以 上